

COMPANY PROFILE

会社概要 (平成30年9月30日現在)

商号 日本ドライケミカル株式会社
(Nippon Dry-Chemical CO., LTD.)
代表者 代表取締役社長 遠山 榮一
設立 昭和30年4月23日
資本金 700百万円
従業員数 646名/グループ総数739名 (平成30年3月31日現在)

役員体制 (平成30年9月30日現在)

役員	代表取締役社長	遠山 榮一
	取締役	浅田 裕冲
	取締役	佐藤 寛則
	取締役	亀井 正文
	取締役	松岡 猛
	取締役	樋田 浩二
	社外取締役	海老根 洋一
	常勤監査役	内村 滋樹
	社外監査役	渡慶次 憲彦
	社外監査役	紀陸 保史

※取締役 海老根洋一氏は会社法に定める社外取締役です。
※監査役 渡慶次憲彦氏ならびに紀陸保史氏は会社法に定める社外監査役です。

株式の状況 (平成30年9月30日現在)



※平成30年10月1日、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施し、発行済株式総数は7,181,812株となっております。

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
総合警備保障株式会社	550,000	15.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	182,900	5.16
日本ドライケミカル取引先持株会	144,500	4.08
株式会社初田製作所	100,000	2.82
新日本空調株式会社	96,000	2.71
沖電気工業株式会社	89,000	2.51
株式会社吉谷機械製作所	80,000	2.25
株式会社東京エネシス	70,000	1.97
日本ドライケミカル従業員持株会	67,100	1.89
大機電設工業株式会社	62,300	1.75

※持株比率は自己株式(50,312株)を控除して計算しております。

株式のご案内

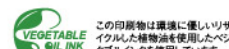
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会:毎年3月31日
期末配当金:毎年3月31日
中間配当金:毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して
定めた日

単元株式数 100株
証券コード 1909
公告の方法 電子公告の方法により、当社ホームページに
掲載いたします。
(<http://www.ndc-group.co.jp/>)
ただし、事故等やむを得ない事由によって電子
公告による公告が行えない場合は、日本経済
新聞に掲載いたします。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

- ・証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出
およびご照会は、口座のある証券会社にてお願いいたします。
- ・証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先
にご連絡ください。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 フリーダイヤル 0120-782-031
(平日9:00~17:00/土日祝除く)



NDC 日本ドライケミカル株式会社

〒135-0091 東京都港区台場2-3-1 トレードピアお台場
<http://www.ndc-group.co.jp/>

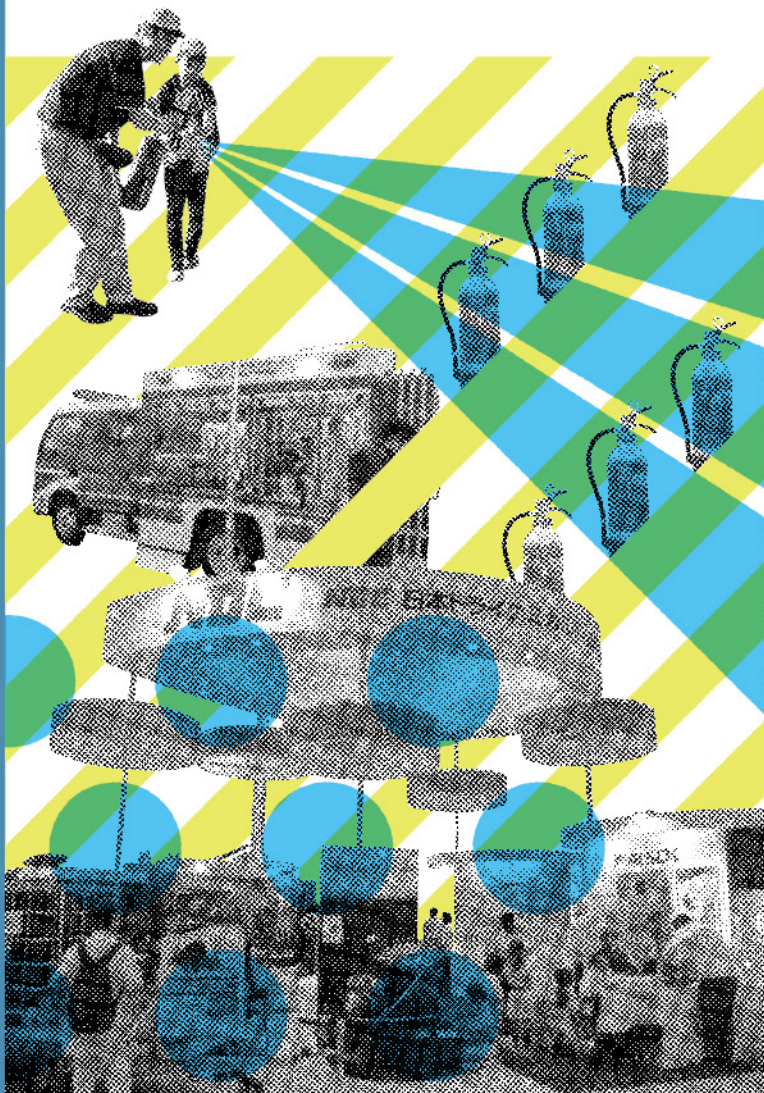
第67期 第2四半期

株主通信

平成30年4月1日~平成30年9月30日

NDC 日本ドライケミカル株式会社

証券コード 1909



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社の属する防災業界におきましては、東京オリンピック・パラリンピックを背景に、民間設備投資は堅調に推移しているものの、一方で国内労働市場の逼迫感は急速に広がっており、なお、先行きへの懸念は払拭できませんが、政府による経済再生に向けた諸政策のもと、消費者マインドの改善とともに、総需要の底上げによる景気浮揚への期待感は膨らんでいるようにも見受けられます。

このような経済状況のもと、当社グループは、自動火災報知設備から消火設備、消火器、そして消防自動車までを広くカバーする総合防災企業としての立ち位置を更に強化しつつ、製品ラインナップの拡充を図り、積極的な営業活動を推進しております。

総合防災企業として新たなステージへ

当社は、消火器の製造からスタートし、60年以上の歴史のなかで消火設備・消防自動車・自動火災報知設備と防災に関する事業領域を拡大し続け、現在は、お客さまの防災にかかわるすべてのニーズにワンストップでお応えすることができる総合防災企業へと発展してまいりました。

当社は、総合防災企業として新たなステージへ向けて、収益基盤の強化を図るために、引き続き、製品・サービスの差別化、すなわち当社オンリーの防災製品・防災システムの開発を進めていく方針です。このため、アライアンスの強化および当社独自の研究開発体制の強化を経営施策として掲げており、アライアンス強化の一環として、11月に広伸プラント工業株式会社をグループ会社化いたしました。同社は、プラント施設の配管設計・加工から設置工事までを中心に事業展開しており、防災事業のなかでも特にプラント施設全般に対

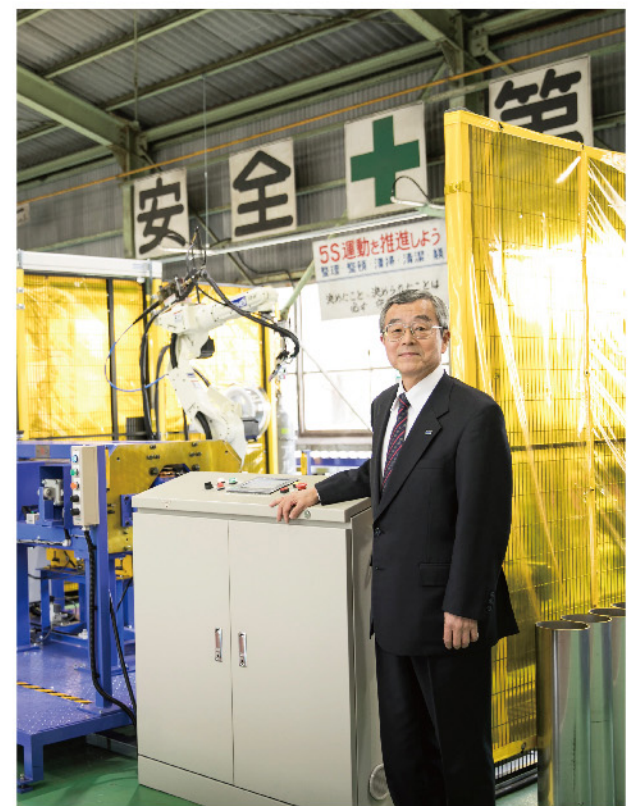
する協力体制を構築し、大きなシナジーを創出することにより、両社の事業領域を拡大してまいります。

防災製品・防災システムの開発としましては、自動火災報知設備との兼用が可能なパッケージ型自動消火設備Ⅰ型を、新たにラインナップいたしました。

当社は引き続き、当社オンリーの防災製品・防災システムの創造を進め、お客さま視点に立ち、ナンバーワンの総合防災メーカー、エンジニアリングカンパニーへと飛躍してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社の発展にご期待いただき、引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長
遠山 榮一



NEWS & TOPICS

ニュース&トピックス

福島工場にて「夏休み ものづくり企業見学ツアー」を開催!

平成30年7月25日、福島工場にて「夏休みものづくり企業見学ツアー」を開催しました。このツアーは、「ふくしまものづくり「企業・技・ところ」に直接触れる」というコンセプトのもと、福島市商工観光部が企画したものです。

当日は、抽選で選ばれた市内の小学4年生~中学1年生男女20名が参加してくれました。消防車の乗車体験ではうれしそうな笑顔がこぼれ、昇降ポール付き消防車による地上8mからの放水には大歓声が!また、訓練用の水消火器を使用した消火体験には、真剣な表情で取り組んでくれました。さらに、工場

見学、防災クイズ大会なども行い、3時間にわたるプログラムを終了しました。

株式分割を実施しました

平成30年10月1日、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。この分割は、当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることにより、投資家の皆様により投資しやすい環境を整えるとともに、投資家層の拡大及び株式の流動性の向上を図ることを目的とするものです。

FEATURE

東京国際消防防災展2018 出展レポート

2018年5月31日～6月3日 at 東京ビッグサイト

「東京国際消防防災展」とは

5年ごとに開催される「東京国際消防防災展」は、災害時の防災知識・対策の周知や、産業の振興を促進することを目的とし、全国から消防防災関連の団体・企業が集結するビッグイベント。さまざまな展示やイベントがあり、子どもから大人まで楽しく消防・防災を学ぶことができます。今回の開催は、2018年5月31日～6月3日までの4日間で、来場者数は延べ17万9428人と過去最多になりました。当社の出展コンセプトや展示製品の内容を、担当した2名の社員から報告させていただきます。



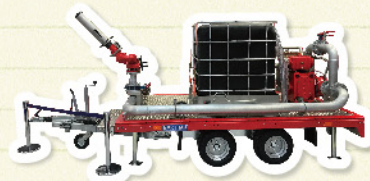
「防災のすべてに対応できる 総合防災企業」をアピール

「東京国際消防防災展」は、規模も集客力も通常の展示会とはケタ違いの一大イベント。展示会の中でも特別な位置づけです。当社は、“火を感じし火災を知らせる”ことから“火を消す”ことまで防災にかかわるすべてのニーズにワンストップでお応えすることができる「総合防災企業」。その強みを大々的にアピールできる格好の機会ととらえ、今回の防災展に臨みました。当社の出展コンセプトは、「当社オリジナル製品をご紹介すること」と「消防・防災にかかわるすべての製品・システムを提供できること」の2つに絞り、来場した多くの方々に広くPRいたしました。また、当社は海外メーカーとの関係を強化しており、海外メーカーの防災製品を多数展示し、優れた製品を積極的に取り扱っていくことも発信いたしました。

特長ある製品を展示



先端にカメラを搭載した昇降ポールにより、地上8mの高さから確実な放水が可能。密集市街地など狭い路地での消火活動に威力を発揮する消防車「DRFFE」。



「FireDosプロシューナー搭載トレーラー」は、消火用モニター・泡混合装置・泡原液タンクを搭載し、危険物施設の火災に迅速かつ適切な消火活動が可能。

高い再燃防止作用と負触媒（燃焼抑制）作用を発揮する、ハイグレードな消火器「NDCプレミア90」。普通火災・油火災・電気火災のいずれにも対応。



展示製品一覧

- 可搬式一体型消火システム FireDosプロシューナー搭載トレーラー
- 密集住宅用高所消火装置 DRFFE
- プレミアム消火器 NDCプレミア90-3K
- 住宅用フードファン付レンジ用自動消火装置 キッチンファイター
- パッケージ型自動消火設備 I型 NEOスプリンクラー-RX
- 差動式分布型感知器（熱電対式） Easyサーモワイヤー
- 超高感度煙検知システム VESDA-E VEAシリーズ
- 胸骨圧迫訓練評価システム しんのすけくん



平日は消防関係者、全国のエクステン（代理店）、お取引先さまなど、週末は一般の方々で賑わった、NDCのブース。お越しいただいた皆様から好意的な評価をたくさんいただき、無事終了することができました。



COLUMN

- 社員が語るNDC -



大阪支店
メンテナンス営業部2課
北園 翔太郎
2013年入社

目指すは「頼れる総合防災営業マン」 日々精進しています！

私は小学2年生のときに、阪神・淡路大震災で震度7を経験しました。家の隣の建物は崩壊し、何度も起こる余震に震えながら過ごしたことを今でも鮮明に覚えています。その経験から、「災害に備え、被害を最小限に抑える仕事」に携わりたくて、防災業界を目指しました。

私の所属する部署では、消防用設備の保守点検の営業、及び、設備リニューアル等の提案営業を行っています。さらに、設備を利用されているお客様との打ち合わせ、準備手配、管理等も行います。当社は、消火器から自動火災報知設備、消火設備、消防自動車まで、消防設備全般を取り扱っていますので、「消火・防災設備なら何でもお任せください！」と自信を持ってお客様におすすめしています。

今後さらに、消防や商品に関する知識を深め、誰からも頼られる総合防災営業マンになりたいと思っています。



仕事に関して「消防設備士」の資格を5つ取得。現在は、甲種4類取得に向けて勉強中。「深い知識と、1つ1つの案件に真摯に向き合う姿勢が、信頼につながる」と考えています。」

ABOUT PERFORMANCE

第2四半期累計期間 連結決算概要

連結貸借対照表

(単位:千円)

	前期末 平成30年3月31日現在	当第2四半期末 平成30年9月30日現在
資産の部		
流動資産	19,508,774	16,753,766
固定資産	7,891,273	7,748,591
有形固定資産	5,008,367	4,891,862
無形固定資産	1,389,596	1,301,682
投資その他の資産	1,493,309	1,555,047
資産合計	27,400,047	24,502,358
負債の部		
流動負債	13,426,842	10,389,310
固定負債	2,363,763	2,286,375
負債合計	15,790,605	12,675,686
純資産の部		
株主資本	11,278,597	11,461,129
資本金	700,549	700,549
資本剰余金	3,620,607	3,620,607
利益剰余金	7,073,579	7,256,111
自己株式	△ 116,139	△ 116,139
その他の包括利益累計額	330,844	365,542
純資産合計	11,609,441	11,826,671
負債純資産合計	27,400,047	24,502,358

自己資本比率(連結)

42.4% 48.3%

POINT

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、売上債権および仕入債務の減少等により総資産が前期末比2,897百万円減少し、資産合計は24,502百万円となりました。この結果、自己資本比率が前期末比5.9ポイント上昇し、48.3%となりました。また、当期間の営業活動によるキャッシュ・フローは1,209百万円の収入となり、フリー・キャッシュフローは1,094百万円となりました。

連結損益計算書

(単位:千円)

	前期(累計) 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	当期(累計) 自平成30年4月1日 至平成30年9月30日
売上高	12,097,002	15,514,685
売上原価	9,578,493	12,032,137
売上総利益	2,518,509	3,482,548
販売費及び一般管理費	2,807,177	2,966,859
営業利益	△ 288,667	515,688
営業外収益	52,895	46,909
営業外費用	18,867	27,795
経常利益	△ 254,640	534,802
特別利益	399	624
特別損失	2	10,321
税金等調整前四半期純利益	△ 254,243	525,105
法人税、住民税及び事業税	34,323	226,208
法人税等調整額	△ 42,842	△ 7,556
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 245,723	306,453

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前期(累計) 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	当期(累計) 自平成30年4月1日 至平成30年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,432,913	1,209,610
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 258,216	△ 114,946
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 914,932	△ 200,276
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,557	2,777
現金及び現金同等物の増減額	261,322	897,164
現金及び現金同等物の期首残高	1,871,622	2,363,297
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,132,945	3,260,462

POINT

当第2四半期連結累計期間の連結損益は、防災設備事業において都市再開発およびリニューアル等の大型工事件の進捗が進んだこと等により、売上高は前年同期比3,417百万円の増収、親会社株主に帰属する四半期純利益は同552百万円の増益となりました。